

あいらつ 理事長

公益財団法人岩手県体育協会
理事長 平藤 淳



元号が令和に変わった今年、岩手のスポーツにも大きな変化がありました。

岩手県は、これから5年間のスポーツを進めてゆくための「岩手県スポーツ推進計画」を今年3月につくり、4月から計画に基づいたスポーツ振興をしています。その目指す姿を「スポーツの推進による県民誰もが健やかで輝く岩手の創造」とし、4つの「施策の柱」=①ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進②共生社会型スポーツの推進③国際的に活躍する競技スポーツの推進④地域を活性化させるスポーツの推進=で達成しようとするものです。共生社会型スポーツや地域を活性化させるスポーツを推進するという新たな考え方も見られ、ワクワクする計画になっています。皆さまも一度お読みになって、スポーツを考えるきっかけにさせていただきたいと考えています。

当協会は、この計画の4つの分野すべてに関与してゆかなければならないのですが、皆さまがイメージしているとおり、主な業務は「国際的に活躍する競技スポーツの推進」分野に関わるものです。具体的には、国内大会・国際大会で活躍するトップアスリートを多数育成すること、そして、その活躍する姿で県内の皆さんに喜びと感動を味わってもらい、新たにスポーツに取り組む人を増やしてゆくことです。

まずは、この5年間、そしてその先も見据え、関係者が知恵を出し合って、新たな「目指す姿」を達成しなければならぬと考えます。

さて、秋の本大会が茨城で開催された第74回国民体育大会も終了しました。国体は都道府県ごとの成績がでる国内唯一の総合大会で、岩手県選手団は「東北トップ、男女総合順位20位台」という目標のもとで一年間行ってきた練習の成果を発揮すべく参加しました。

スケートとスキー、陸上競技でそれぞれ一人ずつの個人優勝、弓道とアーチェリーの団体優勝をはじめ、31競技にわたる入賞があったものの、男女総合成績は全国31位、東北では宮城について2番目の成績となり、目標を達成することができませんでした。それぞれの競技の選手・指導者は一生懸命に頑張っていたのですが、総合成績では力およばず…という結果に終わりました。

私は今、大きく反省しています。

昨年の国体での岩手県は、男女総合24位で東北トップでした。そして、今年の国体東北ブロック予選通過数は昨年より多かったのです。これなら大丈夫だ…という気持ちが、私にあったに違いありません。しかし、終わって見るとそうはゆかなかったのです。

先ほどのスポーツ推進計画では、競技スポーツ推進の指標として「国民体育大会天皇杯順位=男女総合成績」が示されています。2019年から2023年の5年間一貫して「東北1位」が目標です。

ある雑誌に、シェア7割を誇るというカルビーのポテトチップうすしお味は、1975年の発売以来、14回も使用する塩の産地などを細かく変えてきたという記事がありました。「定番は進化し続ける」という題でした。

今年は、去年と同じようなことをして去年に及ばなかったという経験を積みました。東北トップであり続けるためには、変わり続けなければなりません。がんばります、がんばりましょう。

■岩手県スポーツ推進計画はここで↓読めます
<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/sports/1007366/1019800.html>

